令和　　7年度　　園評価書

園番号　45　　園名　高部中央こども園

Ⅰ　経営の重点に関わること

評価段階（A：よくできている　B：概ねできている、C：あまりできていない、D：できていない）

1　教育・保育目標	2　重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
心豊かで たくましい子	「もっとやってみよう」 ～なんで？ どうなる？ おもしろい！～	「やってみたい」［もっとやってみたい」遊びが楽しめている	「やってみたい」を実現できる物的環境(玩具・遊具・場所など)だけでなく保育教諭が共感したり一緒に遊んだりしていったことで、自分で遊びを選択し「もっと」「やってみたい」の姿につながり自分達で遊びを楽しんだり友達や保育教諭を誘い夢中になって遊ぶ姿が増えていった	A	A	・やってみたいを生み出すきっかけづくりやつないでいく計画性が出来ていた ・どうすれば安全かつ楽しく遊べるか工夫している ・環境づくりには終わりがない。子どもの姿を捉え準備を行い、子どもの遊びに合わせて立て直していく。その繰り返しであるので、出来なかったのではなく続けることを大切にしてほしい	・今後もいつでも使えるようにすぐに取り出せるような可動遊具などの配置・準備をする。また、年齢によっては自分達で取り出せるような用具や玩具の置き方をしていく ・更に子ども達が自分達で試したり工夫したりできるように選べる環境(用具・廃材・絵本)を整えていく ・友達同士では、まだ相手の思いに気が付かないことがあるため、引き続き相手の思いに気づくことが出来るよう仲立ちをしていく
		自分なりに試したり工夫したりして遊んでいる	一人一人の「どこに楽しさを感じているのか」に注目することで個に合った環境設定ができている。遊びの中で上手くいかなかった時に再挑戦したり、保育教諭に聞いたり一緒に考えたりしながら、子ども自身が工夫し何度も繰り返し遊ぶ姿が見られた	A	A		
		自分の思いを伝えたり相手の思いに気付いたりしながら、保育教諭や友達との関わりを楽しんでいる	保育教諭が肯定的に思いを汲み取る関わりの中で保育教諭には思いを伝えることができている。友達同士では相手の思いに気付きにくいところも気づくことができるように双方の思いを保育教諭がつなげていくことで自分の思いを安心して出し相手の思いも受け止めようとし関わって遊ぶことを楽しんでいる	A	A		

Ⅱ　各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	遊びや生活を通して異年齢で関わる中で年上児に憧れたり、年下児に優しく関わったりする気持ちを育てる	日々の遊びの中で自然な形で関わることができる場を設けたり、遠足やクリスマス会など異年齢グループで遊んだり過ごしたりすることで年上児の名前を呼んだり年下児の手を引いて遊んだりし関わって遊ぶ姿が見られるようになった。今後も室内遊びの中でも交流し気軽に行き来できるようにしていく	A	A	・異年齢の関わりは、0歳児が散歩に出かける際に、幼児クラスの子が手をタッチして送り出している。自然な関わりの中でしている事であり、普段から関わっている事が伝わってくる ・言葉にならない思いが表情や仕草で出している子ども達を保育教諭は見取り、くみ取って関わっている。それを子ども達に広げていき、子ども同士をつなげていく役目をしている。その点で、子どもの成長に合わせた支援をしている ・安全・防犯意識では、危険をどのようにイメージしどのように指導していくのか考え、繰り返し行う事で身につく。毎月の訓練はそのまま続けてほしい ・食を大事にしている。おいしくいただくのは生きていく上で大事なこと。実際に食材に触れたり匂いをかいだりすることは健康教育につながるので今後も続けてほしい ・支援教育はその子の特性に合わせた支援を行っていると思う。担当者にだけ頼らず園全体での見守りが出来ている。特別支援も終わりがなく満足できないと思う ・虹会も計画的によくできている ・コドモンアプリは家庭と園との情報共有として有効的であるため、フルに活用してほしい ・地域活動については、周りの方に協力してもらうには普段から地域や家庭と関わりをもつことが大事。保護者の知り合いからつながっていくと地域に広がっていくと思う	運動会、劇遊びなどの行事で見せ合うだけでなく日々の遊びの様子を共有し、普段からクラスの枠を越えて関わることが出来るよう意識して散歩や集団遊びなどを取り入れて年上児に憧れの気持ちがもてるようにしていく
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	家庭生活や在園時間、発達過程をふまえ、一人一人の生活リズムを大切にし、安心して過ごせるようにしている	職員間での情報共有を毎日の打ち合わせやその都度行うようにし統一した援助をしたことで、一人一人の子どもの様子や生活リズムに寄り添ってかかわることができ、子ども達は安心して過ごせている	A	A		子どもの様子、発達過程(年齢)に合わせた活動の調整を行っていくようにする(一斉活動ではなく、個別に援助していく)
	(3)環境を通して行う教育及び保育	様々な子どもの思いを実現できる環境を整えている	子どもの遊びを見取りながらやりたい思いを実現する環境をクラス内での振り返りや会議などで話し合って再構成していくことで生き生きと遊ぶ姿が見られた。しかし子どもたちが用具や玩具を自ら出して遊べるような環境の準備を整えていくことができないこともあったので、可動遊具および室内外の玩具の量、種類、置き場などを定期的に見直しながら発達に合っているかという視点も踏まえてやりたい遊びがすぐにできるように準備していく	B	B		・子どもの発達年齢や経験を踏まえ、必要な玩具の量や種類、可動遊具の高さ、置き場を定期的に見直しやりたい遊びが出来るようにしていく ・虹会は年度初めに年間計画を立て、計画的に実施できるようにする
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	自分の身を守ることが出来るように様々な災害を見据えた訓練を行い、安全意識を高めている	避難訓練・不審者訓練での様々な想定を考え実施したことで職員の意識づけにつながっていった。反省点を会議など職員全体で共有していくことで更に園全体の安全意識が高まっていった。また、子ども自身がどうしたら自分の身を守れるか意識しながら訓練したことで子どもたちが自分たちで考えて行動する姿が見られるようになってきている	A	A		今後も、様々な想定を細かく設定し実施するようにして、その時に出た反省点は昼打ち合わせや職員会議で共有し合えるようにする
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	食育活動を通して楽しく食べるように関わっている	日々、給食の食材を見たり触れたりすることで自然と食べ物に対する関心が高まり意識して食べる姿が良く見られる。また、毎月19日の「食育の日」にヤクルトや米屋などの外部講師を招き、話を聞いたり担当が季節に合った内容を知らせたりしている。触れる、嗅ぐ、味わうなど五感を使って楽しく学ぶことができた	A	A		食育の日や日々の給食の中での活動を保護者にも関心をもってもらえるように食育の日での様子や内容をドキュメンテーションや掲示という形で発信していく
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	職員間の情報共有や協力体制をつくり、一人一人の支援計画に沿った支援ができている	会議などで支援児の様子や支援方法など園全体で情報共有することができたが、担任以外の保育教諭も一人一人の特性に合わせた支援ができなかったので各々が同じ関わりができるように、会議やぱんだの会に参加したり情報交換や支援方法についてのすり合わせをしていくようにする	B	B		支援担当の保育教諭や担任だけでなく全職員で周知し同じ支援や関わりをすることが出来るように、文面の報告・周知以外にもぱんだ会議に担任以外の職員も交代で参加できるようにする
5 組織運営	(1)組織体制の充実	職員が自分の分掌の役割を自覚し、チームで協力し合って取り組んでいる	一人一人が自分の役割を自覚し分掌を中心に進めていくことができた。引き続き乳児、幼児のバランスを考えたメンバー構成や計画作成時に行事ごとの担当で集まるようにすることでより協力して進められるようにしていく	A	A		分掌の担当は乳児と幼児の担任のバランスを考え組み合わせ、業務内容や量が偏らないようにする。また、園全体で把握できるように進捗状況を確認したり掲示したりしておく
6 研　修	(1)研修体制の充実	園内研修を行い、研修テーマに沿った手立てや発達についての学びを保育に活かしている	事前、事後研では参加したすべての職員が意見を出し合うことで、多角的に保育を見ていくことができた。子ども一人一人の姿に焦点を当て考えたり、動画を使い一つの場面の見取りを行うようにしたことで、個の見取りも深められた。学びを通して継続的な保育環境の設定につながっている	A	A		公開保育の前後で学びが終わってしまわないように、日常的に保育に活かしていけるように、次の公開保育の事前研や職員会議で話し合い確認し合えるようにしていく
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	季節に合った遊びや発達に必要な体験が得られるように環境が整えられている	夏野菜や芋、米などの栽培物の収穫、クッキングを楽しめた。また、木の実や落ち葉、季節ごと育てた草花を遊びに用いてクッキングのまねごとをしたり体を動かしたりして遊ぶことができた。引き続き虹会の活用を工夫したり子どもの遊びの見取りをより深めたりしていきながら個人と全体での振り返りと環境について考えることをより意識していく	A	A		・今後も虹会で園庭環境の見直しをすると共に、実際に環境を作ったりする時間を設けていく ・遊びに使える草花を研究し、園で植えていく
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	子どもの様子や情報を発信し、子どもの成長を共に喜び、保護者と一緒に子育てを楽しんでいる	保育ドキュメンテーションや連絡帳を毎日コドモンアプリで配信している。幼児は毎日、乳児は週一回写真を添付することで視覚的にも様子を伝えることができている。また行事の時はその日のうちに掲示物を作成し飾り保護者全体へ発信した。それを基に保護者に子どもの様子を伝え共有したことで保護者と保育教諭や保護者と子どもが会話をするきっかけができ、会話が弾み子育てを楽しんでいる	A	A		引き続き、コドモンアプリで子どもの様子や成長を発信し、保護者と成長を喜び合えるようにすると共に、ドキュメンテーションの掲示するタイミングを逃さずに行い、他のクラスの様子も見てもらえるようにしていく
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	近隣園や学校の職員と情報交換をし、園児や児童との交流が行われている	六中学区小中一貫協議会の参加、近隣園との情報交換をしたり二園、三園交流した。飯田北こども園との交流では「近いからまた遊ぼうね」と次回の約束を期待する姿が見られたり、小学校に訪問することで就学に向けた関心や期待を高められたりした。今後も小学校や近隣園との交流の回数を増やしたり園の公開保育に学校の先生に多く来てもらえるような工夫をしたりすることを意識し計画を立てアプローチしていく	A	A		・二園交流の方が計画しやすいため、普段から連絡を取り合ったりねらいや目的をもった取り組みを考え交流できる計画を立てていく ・小学校の先生にも、参加してもらえるように参加しやすい時期を聞きながら計画をしていく。また、いつでも参観できることも伝え受け入れ態勢を整えていく
１０ 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	地域の様々な人との関わりの機会を大切にし、こども園だけではできない体験をしている	S型サービスでは乳児は芋掘りに参加し地域の方と触れ合い、幼児は人前で歌や踊りを披露したことで褒めてもらったり認めてもらう経験をし、自信や親しみにつながっている。外国籍の方のサンタクロースと触れ合ったり、JAや地元の方に力を借りて野菜を育てることで野菜の生長が著しく沢山収穫できる喜びや感動を体験することができた	A	A		・今あるつながりを大切にし、新しい関わりにをもつために子どもも職員もその出会いを大切に新たな経験へとつなげていきたい